

米国財務会計基準審議会（FASB） との第 14 回定期協議の概要

みやばやし あきひろ
専門研究員 宮林 明弘

1. はじめに

2013年3月4日及び5日の2日間、企業会計基準委員会（ASBJ）は、米国財務会計基準審議会（FASB）との間で、第14回定期協議

を米国ノーウォークで開催した。ASBJからは西川委員長、加藤副委員長（当時）、小賀坂主席研究員（当時）他スタッフが参加し、FASBからはLeslie F. Seidman議長、Thomas J. Linsmeier理事に加え、ディレクター、担当スタッフも参加した。

2. 全体のスケジュール

日時	議題	主な内容
4日 午前	ASBJ、FASBの各アップデート	
	概念フレームワーク	<ul style="list-style-type: none"> • 全般事項 • 会計単位 • 認識及び認識の中止 • 構成要素－負債と資本の区分
	概念フレームワーク（続き）	<ul style="list-style-type: none"> • 測定 • 表示
午後	開示フレームワーク	<ul style="list-style-type: none"> • 財務諸表注記の範囲 • 開示要求の柔軟化 • 目的適合性の判断基準 • 期中財務諸表における開示
	リース	<ul style="list-style-type: none"> • 不動産リースの取扱い • セール・アンド・リースバック取引
5日 午前	金融商品：分類と測定	<ul style="list-style-type: none"> • 事業モデルの評価 • 契約キャッシュ・フロー特性の評価
	金融商品：減損	<ul style="list-style-type: none"> • ASBJスタッフによる現在予想信用損失（CECL）モデルに対

		する予備的分析 ・可能性のある減損モデルの代替案 ・信用損失の見積りに内在する不確実性への対処 ・ポートフォリオ・レベルの評価と個別レベルの評価の切り分け
--	--	--

3. 議事概要

(1) ASBJ/FASB アップデート

ASBJ 側からは、次の項目を中心に説明がなされ、意見交換が行われた。

- ・国際財務報告基準（IFRS）を取り巻く最近の状況（IFRS の任意適用企業の状況を含む。）
- ・国際会計基準審議会（IASB）と各国基準設定主体との関係（会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）を含む。）
- ・ASBJ と FASB との今後の関係
- ・FASB と IASB の MoU プロジェクトの状況（金融商品、リース、収益認識等）

FASB 側からは、ASAF の設置及び ASAF での議論の進め方に関して米国で聞かれる意見、主要なプロジェクトの検討状況などを中心に説明がなされ、意見交換が行われた。

(2) 概念フレームワーク

IASB は現在、概念フレームワークの討議文書の公表に向けた審議を進めている。概念フレームワークのあり方は高品質なグローバル会計基準の開発のために重要であるとの認識から、ASBJ 及び FASB は、本定期協議にて、IASB の 2013 年 2 月の審議資料を題材にして、主に次の項目の主要論点について議論を行った。

- ① 全般事項
- ② 会計単位
- ③ 認識及び認識の中止
- ④ 構成要素－負債性金融商品及び資本性金融

商品の区分

- ⑤ 測定
- ⑥ 表示

① 全般事項

主に次の項目について、ASBJ スタッフの見解が説明され、意見交換が行われた。

- ・概念フレームワーク開発のスケジュール
- ・FASB の概念フレームワークとの乖離の可能性
- ・優先すべき項目について

② 会計単位

会計単位に関して、主に次の項目について ASBJ スタッフの分析が説明され、意見交換が行われた。

- ・会計単位の定義
- ・会計単位と一般目的財務報告との関係
- ・項目のグループ化を考慮すること（そして測定すること）が適切な場合

③ 認識及び認識の中止

認識及び認識の中止については、主に次の論点について、ASBJ スタッフの分析が説明され、意見交換が行われた。

- ・不確実性の取扱い
- ・自己創設のれんの認識
- ・認識の中止要件

④ 構成要素－負債性金融商品及び資本性金融商品の区分

負債性金融商品と資本性金融商品を区分するために、IASB で審議された次の 2 つのアプローチについて、ASBJ スタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- ・1 ステップ・アプローチ：親会社が発行した

資本性金融商品のうち、最残余のクラスの現在及び将来の所有者を資本とし、最残余以外は負債に分類する。

- 2ステップ・アプローチ：経済的資源の移転義務のあるものを負債とし、その他のすべての請求権を資本に分類する。また、最残余以外の資本を再測定し、その影響を持分変動計算書で表示する。

⑤ 測定

測定に関して、主に次の論点について、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- 測定の原則
 - ・ 測定の章に含まれるべき項目
 - ・ 測定の原則、及び、各状況において適切な測定基礎を決定するための判断の枠組み
 - ・ 利用可能な測定基礎
- 資産及び負債の適切な測定基礎の決定方法
 - ・ 資産に関する適切な測定基礎の決定（次のような、資産の価値の実現方法に着目した測定基礎の決定方法）
 - ✓ 使用
 - ✓ 売却
 - ✓ 契約キャッシュ・フロー回収のための保有
 - ✓ 使用する権利について他者に料金を賦課
 - ・ 負債に関する適切な測定基礎の決定

⑥ 表示

表示に関して、主に以下の論点について、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- 表示の章に含めるべき項目
- 業績の定義を表示の章で扱うべきか否か

(3) 開示フレームワーク

2012年7月にFASBは、意見募集「開示フレームワーク」を公表した。この意見募集に対して、ASBJは2012年11月にFASBに対し

てコメントレターを提出した。

このセッションでは、提出したコメントレターに基づき、主に次の論点についてASBJスタッフの分析が説明され、意見交換が行われた。

- 財務諸表注記の範囲
- 開示要求の柔軟化
- 目的適合性の判断基準
- 期中財務諸表における開示

(4) リース

2012年6月のFASBとIASB（以下「両審議会」という。）の共同会議で、リースは、借手・貸手の各々において、2種類の異なるリースに区分した上で、異なる会計処理がされることが暫定決定された。当該区分は、借手がリース期間にわたって原資産の重要でないとはいえ部分を取得し消費するかどうかに基づき、決定する。なお、このリースを区分する原則は、不動産のリースと不動産以外の資産のリースにおいて、それぞれの原資産の性質に基づく実務上の便法を用いて適用することが暫定決定された。

このセッションでは、不動産リースの取扱いとセール・アンド・リースバック取引についてASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

(5) 金融商品（分類と測定）

両審議会は、各々の金融商品の分類及び測定モデルの差異の削減を図るための共同作業を行うことを2012年1月に決定し、(1)商品の契約キャッシュ・フロー特性テスト、(2)金融資産の分離及び(3)第3の事業モデル（OCIを通じた公正価値区分）を主に検討した。これらの検討を踏まえ、IASBは2012年11月に、公開草案「分類及び測定：IFRS第9号の限定的修正（IFRS第9号（2010年）の修正案）」を公表し、

また、FASBは2013年2月に、会計基準更新書(ASU)案(公開草案)「金融商品(全般)(Subtopic 825-10):金融資産及び金融負債の認識及び測定」を公表した。これらの両公開草案は多くの部分でコンバージェンスを達成する方向となっている。

このセッションでは、両公開草案の内容を踏まえて、主に次の論点についてASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- 事業モデルの評価
- 契約キャッシュ・フロー特性の評価

(6) 金融商品(減損)

両審議会は、2012年7月まで金融資産の減損について、いわゆる3バケットモデルに基づく方法を共同で開発していた。しかし、3バケットモデルについて多くの関係者から、理解可能性、実行可能性、監査可能性について重大な懸念が示されたことを踏まえ、FASBは、2012年8月に現在予想信用損失モデル(Current Expected Credit Losses Model: CECL)

という代替モデルの検討を開始し、2012年12月にASU案(公開草案)「金融商品:信用損失(Subtopic 825-15)」を公表した。IASBは、3バケットモデルの開発を継続している¹。

このセッションでは、FASBの公開草案の内容やIASBの審議の動向を踏まえて、主に次の項目・論点についてASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- ASBJスタッフによる現在予想信用損失(CECL)モデルに対する予備的分析
- 可能性のある減損モデルの代替案
- 信用損失の見積りに内在する不確実性への対処
- ポートフォリオ・レベルの評価と個別レベルの評価の切り分け

4. 次回の予定

今回は2013年下期に東京で開催する予定である。

1 IASBは、その後2013年3月7日に、公開草案「金融商品:予想信用損失」を公表した。